

「希望の桜」で五輪マラソン応援

北海道雪氷桜プロジェクト実行委員会（実行委員長・越智文雄あかりみらい社長）は「北海道雪氷桜プロジェクト202

1」で、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催応援を目指している。雪氷エネルギーを活用した「希望の桜」

で世界のアスリートを迎えようという考えだ。



▲農業用コンテナを用いて長さ1.5mに剪定した桜の枝を埋雪した。（右は横山茂沼田町長）

同委員会は、18年に北海道150年を記念して市民活動として発足した。19年には猛暑の銀座で雪柱と桜の展示実験を行い、昨夏は道内30以上の自治体の協力を得て、札幌駅とさっぽろテレビ塔、新千歳空港で約3000本の展示を行った。



▲北海道神宮で子どもたちが桜の剪定を行った

今年「3年越しの夢」を実現しようと、3月に開始した。桜の名所である松前町や新ひだか町をはじめ道内32自治体と北海道神宮から集まったおよそ3300本のつぼみのついた桜の枝を「希望の桜」と名付けて3月26日に沼田町の雪山に埋雪。オリンピック開催前に掘り出して、真夏に桜を咲かせ、その小枝を振ってマラソンや競歩の選手を応援する計画だ。



▲昨夏、札幌駅南口地下街「アピア」に展示された桜の枝